

第 3 回木曽山崎団地地区まちづくりワークショップ実施報告

1. まちづくりワークショップの目的

第 3 回ワークショップでは「新しいまちの活用アイデア」をイメージして、2040 年におけるまちのアクティビティや営みについて考えました。モノレールが延伸され、新たなまちが生まれた後の将来の木曽山崎団地地区を思い描きながら、人々のアクティビティや営みを実現するために自分たちが出来ることを考えました。

2. 第 3 回まちづくりワークショップについて

(1) 日時

2025 年 7 月 6 日（日） 13：30～15：30

(2) 場所

桜美林大学 桜美林芸術文化ホール ひなたやま交流プラザ

(3) 出席者

参加者：11 名（学生 5 名）

(4) 事務局

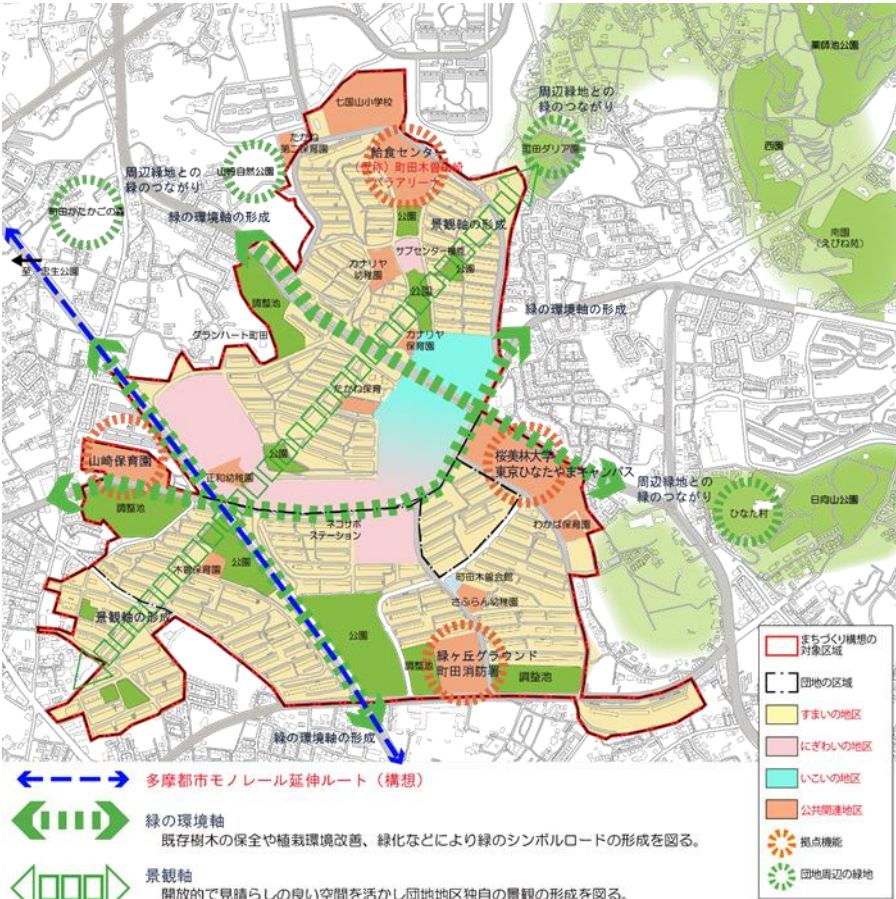
町田市：4 名、UR リンケージ（受託業者）：5 名

(5) オブザーバー

UR 都市機構：2 名、東京都住宅供給公社：2 名

(6) グループワークの概要および結果

2040 年の木曽山崎団地地区でやってみたいことについて昨年度の成果である整備イメージの 3 つのエリア（①にぎわいのエリア、②いこいのエリア、③すまいのエリア）でやってみたいことを意見交換しました。また、やってみたいことを実現するために自分たちができることについて意見交換をしました。



①にぎわいのエリア

やってみたいこと	そのためのアクション
地域色のあるイベント - 特設ステージで地域色の有るフェスの開催を通年で実施したい。 - 蚤の市に参加したい。 - 多目的なアウトドアを実施する場を開催してほしい。	- 自分がやりたい活動も気軽にできるようにレンタルスペースを活用し、発表できるようにする。 - 団地の人もサポートすることで、イベントのノウハウやイベント内容について学びを得やすいのではないか。
学生のイベント - 桜美林大学の学生による路上コンサートを開催してほしい。 - 防災・落語など桜美林大学との連携したイベント	- 大学生がお手伝いし、地域で使えるクーポン券を配るなど学生が自発的に運営できるシステムを地域で構築する。 - 学生も楽しめる場となるように地域と学生が互いにできることを助け合う。
いちょう通りの環境整備 - 通学路楽しめるような場の整備 - いちょう通りではミストシャワーを整備し、暑さを軽減する。	
食の場 - 外食といった飲食や楽しめる場を作ってほしい。 - 屋台村を実施してほしい。	
地域の情報発信 地域情報を知る場（例、駅の広場）	

②いこいのエリア

やってみたいこと	そのためのアクション
環境学習 - 生物と触れ合える野生的な活動をしたい。 - 池の植生を学ぶイベント（池の植生に触れられる・育成）	- 地域住民主導のガイド案内でできるような環境づくり。 - 学校との連携や教育的な利活用との連携を図る。
コミュニティ形成に寄与するイベント - 団地内を散策するイベント。 - 防災訓練を実施し、安全なまちづくりを進めたい。 - 子供が安心して遊べる。芝生で遊べる。 - シルバー世代を中心とした集会所の活用	- 若い人の住宅の整備。 - コミュニティの透明化。（見守り当番や顔合わせイベント、掃除といったお互いの顔を知り、交流するきっかけづくりが必要） - 居住者の意見をまとめる。
スポーツ・健康 - 簡単な体操教室。 - ユニバーサルスポーツで人と交流したい。 - 森林浴や朝活動といった健康的な活動をしたい。 - アーバンスポーツ。 - 好きなタイミングでゆるい運動。	

③すまいのエリア

やってみたいこと	そのためのアクション
新たな団地の活用・発見 ・ 住んでいない団地へ足を踏み込んでみたい。 ・ 団地の中の居場所を見つけたい。 ・ 探検しながら、季節を感じたい。 ・ オンライン診察といった医療環境の充実。	・ 団地地図を作ることで団地の居住者の様々なことが知れてよい。 ・ 医療機関・行政・民間・団地事業者との連携。
団地の活用・改修 ・ 団地を活用したアスレチック施設 ・ 住戸を広くし、ルームシェアをしたい。	・ 安全性を担保しながら、団地機能を更新していく。
住民同士のコミュニティ形成 ・ 隣に住む人と仲良くなり、初めての土地の不安を無くしたい。 ・ カラオケ ・ 体操 ・ 福祉の活動 ・ 地域のお祭りに参加したい。 ・ みんなで入れる銭湯が欲しい。	・ 居住者の求めるものやその課題解決方法の把握やマッチングを図るために拠点整備だけでなく掲示板を活用した周知や情報を共有できるシステム作りを行うと良い。 ・ 団地の地域誌を発行することでコミュニティ形成に寄与する。 ・ 住民で話し合い、団地事業者との話し合いの場を作ってもらふ。

(7) 総評

グループワークの結果について共有を行い、ファシリテーターと検討会会長の清水教授が総評しました。

○ファシリテーター（UR リンケージ）

- ・ これまでのワークショップでは、地域に住まわれている方を対象に実施したが、今回は学生も交え、意見交換を実施した。住民でない若い世代の意見も様々あり、多岐にわたって議論が行われた。昨今、高齢者や子育て世代など、様々な世代をつなげる「ミクストコミュニティ」という考え方が重要になってくる中で、今日の議論は重要になってくると思う。

○清水会長の総評

- ・ 今日のワークショップでは、地域に住まわれている方と学生との化学反応が起き、非常に良いと感じた。お住まいの方のまちへの思いと学生のまちへの思いがかけ合わさって良い議論になったのではないかな。
- ・ 昨今の学生は社会課題に対する意識が高い。そういった思いを活かす施策が今後のまちづくりにとって重要になる。
- ・ 世代間のやってみたいことの掛け合わせについては社会解決だけでなく、ビジネスとしても非常に良いアイデアになるのではないかな。
- ・ 今回グループワークで議論した「やってみたいこと」や「実現したい交流」を駅のエリアや駅周辺でどのようにまちづくりへ展開していくのか。展開する中でモノレール延伸がいかに重要になってくるのかという事をどのように「まちづくり構想」で記述するのか、今後の策定に向けて留意されたい。

○ワークショップの様子

